

# 第1章 調査の目的と概要

---



## 1 調査の目的

- 本調査は、平成30年3月に策定した「目黒区障害者計画」の改定を行うにあたり、障害に関する手帳をお持ちの方、および難病患者の方、発達に関する不安や障害のあるお子さまの保護者の方を対象に、皆様の生活の様子や将来の希望などについておうかがいし、計画改定の基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

## 2 調査の方法と回収状況

- 本調査は、身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者については、無作為抽出（50%）した対象者に郵送し、児童等の保護者については、幼児療育通所施設、区立小中学校特別支援学級及び都立特別支援学校を通じて保護者に350部を配布しました。
- また、調査票については「身体障害者用」「視覚障害者用（音声コード付き）」「知的障害者用」「精神障害者用」「難病患者用」及び「児童の保護者用」の6種類を作成し、紙面によるアンケート調査と、インターネットを活用した Web アンケート調査を実施しました。

	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病患者	児童の保護者	合計	
調査地域	目黒区内(施設入所者含む)						
調査方法	郵送配布・回収 インターネット						
調査期間	令和元年9月～10月						
調査対象(a)	1,568	478	706	312	350	3,414	
有効回収数 (b)	調査票	737	244	246	142	129	1,498
	割合	93.4%	94.2%	87.9%	90.4%	84.9%	91.5%
	インターネット	52	15	34	15	23	139
	割合	6.6%	5.8%	12.1%	9.6%	15.1%	8.5%
計	789	259	280	157	152	1,637	
有効回収率(b/a)	50.3%	54.2%	39.7%	50.3%	43.4%	47.9%	

## 3 報告書を見る際の注意事項

- 図表中の「N」は、設問への回答者数を示しています。
- 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については、その設問の回答数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- 各設問に対する回答項目のうち、1位を **白文字**、2位を **太文字** で表示していますが、1位が複数ある場合には、2位の表示は行っていません。
- 身体・知的・精神障害及び難病の方については、総計をグラフとして表示しています。
- 前回（平成28年）、前々回（平成25年）に実施した設問については、グラフに結果（総計）を表示していますが、今回の調査で選択肢の増加や削除、選択肢の表現の変更を行っている場合があります。

#### 4 標本誤差について

- この調査の結果をみる場合に、考慮すべき統計上の誤差があります。考慮すべき誤差（標本誤差）の大きさは、「回答者数（標本数）が少ないほど大きく」、また、「回答比率が低いほど大きく」なります。この標本誤差は統計学的に、以下の式によって算出できます。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{p(1-p)}{n}}$$

- 例えば、「お答えいただくのは、どなたですか。」という質問に1,415人が答えており、そのうち79.9%が「あて名のご本人（代筆を含む）」と回答しました。それぞれの数値を公式に代入すると、次の誤差が算出されます。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{0.799(1-0.799)}{1,415}} \approx 0.0213$$

- したがって、±2.13%が誤差の範囲内となります。つまり、この質問に対する目黒区の真の値は、77.77%~82.03%の間にあると考えられるということになります。

比率 基礎(n)	95% 又は5%	90% 又は10%	80% 又は20%	70% 又は30%	60% 又は40%	50%
1,415	±1.16%	±1.60%	±2.13%	±2.42%	±2.61%	±2.66%